

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年 1月30日

協議会名: ニセコ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: ニセコ町生活交通ネットワーク計画

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
ニセコバス(株)	町内全域を運行区域とするデ マンド型運行 ・運賃1乗降200円 ・ドア・ツー・ドアサービスでの 運行 ・午前8時から午後7時まで毎日 運行(平日のみ、午前7時台に 一部地域からの路線を運行) ・運行区域 町内全域 ・車両及び台数 ワンボックスタ イプ(10人乗り) 2台	高齢者が集う機会を利用した 説明会の開催や町広報誌での 乗り方周知、デマンドバスパン フレットや観光情報誌へ掲載に よる広報活動を行った。	A 計画どおり事業は適切に実 施されている。	B 平成26年度計画時に目標に対 し、バス利用者数は20,000人 に対して、20,364人。 月平均運賃収入は333,333円 ／月に対して、263,460円／月 収支比率は、目標15.09%に対 して、15.15%となっている。 利用者数、収支比率は概ね目 標どおりではあるものの、収入 は目標を達成できていない状 況にある。	特に冬季間に増加する乗車 ニーズに応え、かつ乗車数の 増に繋がるよう運行効率や乗 合率を高めるなど運行体制を 務める。また、利用者アンケ ートから意見集約を図り利用し やすい公共交通機関となるよう理 解を得ながら、適宜改善を図 る。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年1月30日

協議会名:	ニセコ町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【ニセコ町における地域公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニセコ町においては、バス交通が、高齢者や学生など自動車を運転できない町民はもとより、通勤者や来町者などにとっても必要不可欠な移動手段であり、地域公共交通の主役となっている。 ・ タクシーは、町内にある2社と近隣地域の会社がサービスを提供しており、バス交通では対応できない個別的な緊急性や融通性を必要とする町民や観光客の移動、バス停までの移動が困難な高齢者等の通院や買い物などに対応している。 <p>【民間路線バス(ニセコバス)の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間路線バスは、乗降客数の減少と、それに伴う事業性の悪化といった傾向が続いており、乗車密度をみると平成15年度比で0.9~0.1程度低下している。 <p>【ニセコ町における地域公共交通の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニセコ町においては、人口減少、少子高齢化が進み、移動弱者が増加している。そのような移動弱者が利用できる交通手段の確保が課題。 ・ バス交通全般の乗降客数の減少や財政負担の増加に対応するため、これまでも毎年度運行計画を見直してきたが、民間路線バスの運行は、サービス水準の維持・確保と事業の継続の観点からみると極めて厳しい状況にある。また、タクシーに関しても、需要の季節変動が大きく、その経営状況は厳しい状況にある。 ・ 地球環境への配慮が必要となる中、バス・タクシーなどの地域公共交通が一体となった取り組みが図られていない。 <p>以上のことから、ニセコ町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通の確保維持にむけて、利用者・交通事業者・行政等関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化、地域公共交通全体での環境配慮などが急務の課題であった。</p> <p>そのため、本地域公共交通確保維持事業により、ニセコ町デマンドバス運行を行い、住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、本系統は、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと接続をするフィーダー系統であり、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物の彩の交通手段として大きな役割を果たすものである。</p>

ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

山岳に囲まれた波状傾斜の本町にあって、バス交通は、高齢者や学生など自動車を運転できない町民や来町者にとって必要不可欠な移動手段である。

利用者の利便性向上や効率的な運行を図るため、スクールバス、福祉バス、一部の路線バスを統合した町内循環バス(ふれあいシャトル)を運行していたが、人口減少・少子高齢化が進み、利用者が減少する一方で交通弱者が増加し、交通空白地帯も生じてきていた。

こうした中、地域公共交通の確保と利便性の向上を図るため、町内全域を対象としたデマンドバスを運行し、利用者へのサービス水準の維持を実施してきた。

地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線（ニセコ駅、昆布駅）
- ・ ニセコバス（株）（町内2路線）
- ・ 道南バス（株）（町内1路線）
- ・ スクールバス（5路線）

生活交通ネットワーク計画の目標

ニセコ町の実情に即した長期的で持続可能な地域公共交通の確保維持にむけて、利用者へのサービス水準の維持・向上を図り、乗車密度等を高めながら事業性を向上し、化石燃料使用の抑制を図るため、バス交通を中心とした需要と供給をマッチングさせる「マネジメントシステム」(バス交通のデマンド型運行)を実施。

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。現状 16,497人 → 目標 20,000人
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。現状 133,058円 → 目標 333,333円
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率を改善させる。現状11.26% → 15.09%

協議会開催状況

- 平成25年5月2日 第1回協議会
平成25年度事業計画案及び予算案について
協議会役員について
- 平成26年6月27日 第1回協議会
協議会委員の交代について
デマンドバスの運行状況について
地域内フィーダー系統確保維持計画及び運行計画について
- 平成26年1月30日第2回協議会
地域公共交通確保維持改善事業評価について

平成26年度事業概要

町内全域を運行区域とするデマンド型運行

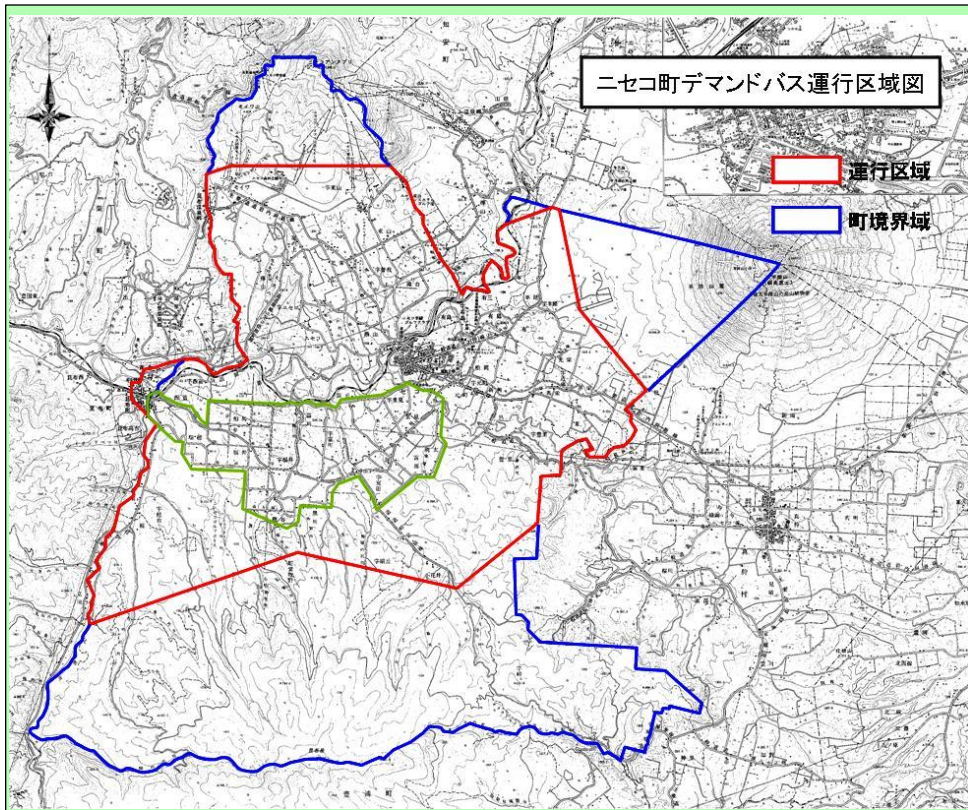
- ・ 運賃 1乗降200円
- ・ 提供方式 ドア・ツー・ドアサービス
- ・ 運行日時 午前8時から午後7時まで毎日運行(平日のみ、午前7時台に一部地域からの路線を運行)
- ・ 運行区域 町内全域
- ・ 車両及び台数 ワンボックスタイプ(10人乗り) 2台

平成26年度事業の実施状況

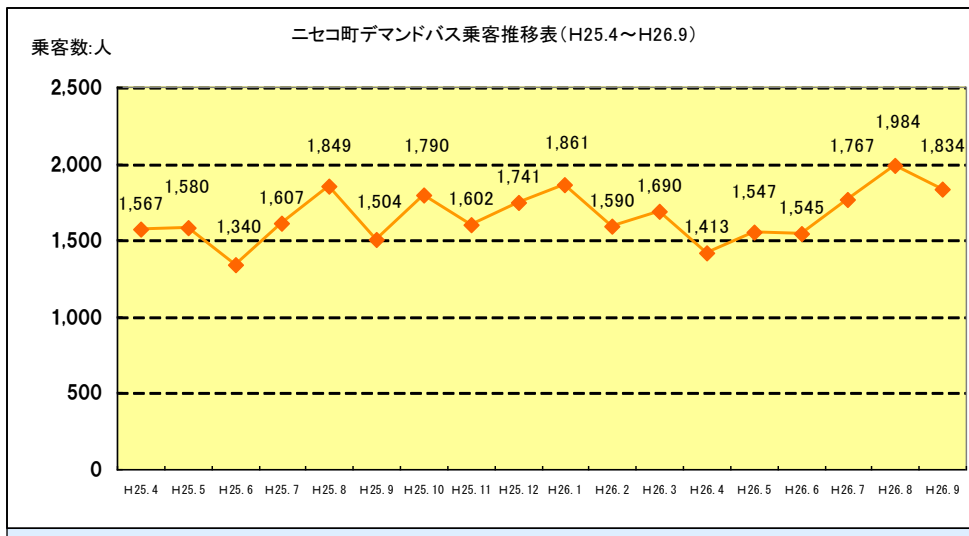
1) プロセス、創意工夫

平成24年10月から従前の町内循環バスに代わり、より利用しやすい公共交通機関として、デマンドバス(にこっとBUS)を導入した。デマンドバスの乗り方などのパンフレット作成、町広報などを活用した周知活動を行った。また、利用需要の増や時間集中に対応するため、予約時に乗合での運行が増加するよう配慮している。

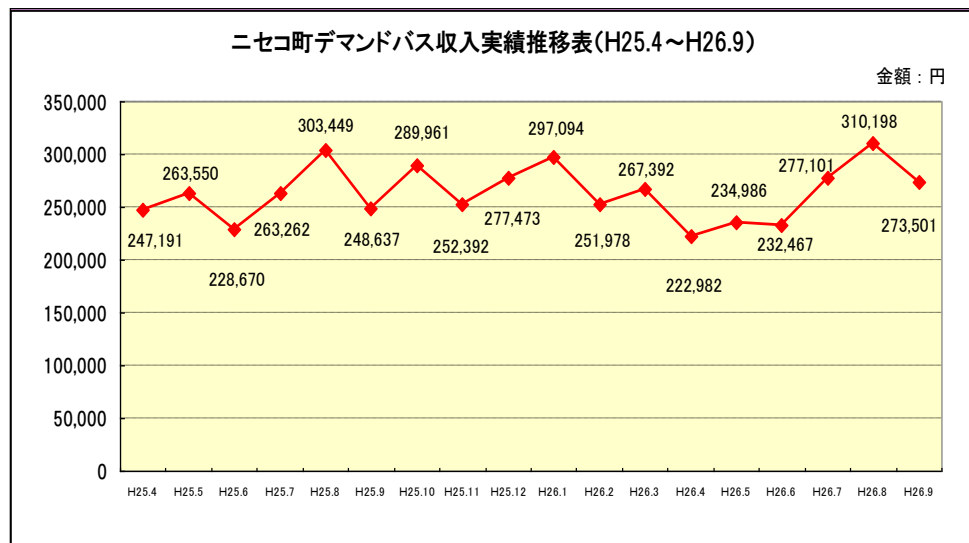
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

平成26年度計画時に目標に対し、バス利用者数は、向上目標である20,000人に対して、20,364(H25.10～H26.9)。

月平均運賃収入の333,333円／月に対して、263,460円／月(H25.4～H26.9平均)。

収支比率については、目標15.09%に対して、15.15%(平成26年度実績)となっている。

利用者数、収支比率は概ね目標どおりではあるものの、収入は目標を達成できていない状況にある。

7) 事業の今後の改善点

特に冬季間に増加する乗車ニーズに応え、かつ乗車数の増に繋がるよう運行効率や乗合率を高めるなど運行体制を務める。

また、利用者アンケートから意見集約を図り利用しやすい公共交通機関となるよう理解を得ながら、適宜改善を図る。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄